

豊明市行政評価制度「施策」評価票

施策評価票番号

28

1 施策の概要

1-1 施策の名称	交通対策			基本施策コード	3-1-2
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施	産業振興課	評価票作成者 産業振興課長 阪野正男
1-3 総合計画における施策の体系	①節	都市基盤・産業振興「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり			
	②項	道路・交通			
1-4 施策の目的	バス路線や鉄道駅が整備され、多くの市民が移動しやすいと感じる交通環境を整えるため。				

	平成22年度評価 (前期の成果)	平成27年度評価 (全期間の成果)
担当課評価	A	
総合評価	A	

● 施策評価の判定基準

- A : 施策の目的を効果的に達成しているため継続する
- B : 施策推進の実手法等に改善の必要がある

1-5 総合計画における基本成果指標	基本成果指標名	前期 (平成18年度～平成22年度)			全期間 (平成23年度～平成27年度)			指標の定義
		目標値 (単位)	実績値 (単位)	達成率 (%)	目標値 (単位)	実績値 (単位)	達成率 (%)	
①	鉄道の利便性	70.0 (%)	74.4 (%)	106.3 (%)	75.0 (%)			鉄道を利用する市民の利便性を高めるため、 交通結節点として充実を図る指標 路線バスを利用する市民の利便性を高める指標 利用者から見た運行状況の充実状況を表す指標
②	路線バスの利便性に対する満足度	50.0 (%)	57.9 (%)	115.8 (%)	60.0 (%)			
③	ひまわりバスの利便性に対する満足度	60.0 (%)	48.2 (%)	80.3 (%)	75.0 (%)			

2 施策の担当課による評価結果

評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	既存事業の構成や優先順位の考え方、新規事業の必要性の考え方	施策の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度	高齢者利用を考慮した運行時刻表を検討する必要がある。	運行の安全対策と高齢者利用者への配慮を優先させる。	路線の延伸に伴う時刻表の改正を行ったことにより利便性は増した
平成19年度	現状の2台体制では路線や運行時刻表を見直すことは難しいが、今後根本的な見直しを検討する必要がある。	〃	路線見直しや往復運行への要望はいくつかあったが、それに対する対応は現状では難しい。
平成20年度	今後のひまわりバス運行形態を検討する会議を立ち上げた。	〃	〃
平成21年度	平成22年10月1日路線改正に向けて地域公共交通会議にて協議を重ねている。	〃	現行の循環方式から改正後は幹線支線方式へとなるよう協議を重ねている。
平成22年度	11年間運行してきた循環型の2両4路線による運行を、平成22年10月1日に幹線支線型の2両12路線に改正しました。改正後の問題点や市民要望の多い増車について調査研究の必要があります。		
平成23年度	平成22年10月改正のマネジメントサイクルによる検証調査を行い、市民ニーズに合わせた運行形態等を協議するため、地域公共交通会議で検討を始めた。		
平成24年度	バスを1台増車にあわせ、25年1月より新ルート・新ダイヤにて運行を開始した。今後、乗車数及び料金収入がどのように推移していくかを見守るとともに、ひまわりバスの利用方法などをPRし、利用を促す方法を考えていく必要がある。		
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

